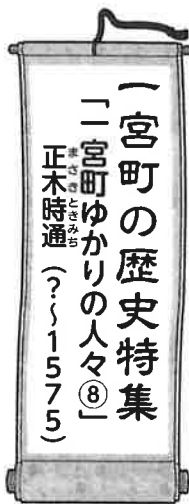


平成29年6月号



正木氏は安房国の里見氏の重臣で、上総国小田喜城(現大多喜城)、勝浦城などを拠点に東上総を支配した一族です。時通は勝浦城主・正木時忠の嫡男として生まれました。

父・時忠は里見氏の天文の内乱(天文2年・1533)と言われた事件の際、兄の時茂とともに里見義堯の家督相続に協力したこともあり、里見家中でも重臣として活躍していました。時通はそんな父に倣い、戦乱の世を戦っていました。

永禄7年(1564)、時忠・時通父子は突如、里見氏から離反して北条氏に通じ、一族の正木大炊助の上総一宮城を攻め落とします。この際に玉前神社も兵火に罹り焼失したと言われています。写真の古文書はその一連の事件ののち、観明寺に出された「制札」と呼ばれる古文書です。観明寺門前での「狼藉」や「喧嘩口論」を禁ずる、など治安維持に関わる内容が書かれています。

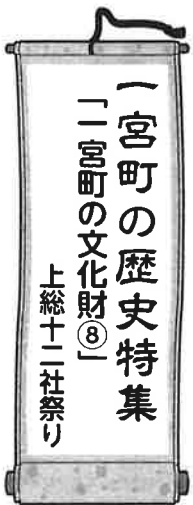
これ以後、しばらくの間時通が一宮地域を支配していたとみられます。また、永禄12年頃からは里見氏の圧力が強まり、また北条氏と里見氏の間に和睦の話が浮上するなど、時忠・時通父子は微妙な立場に立たされます。時通の一宮支配も長くは続かず、これからしばらくのちには勝浦正木氏は一宮城より撤退したようです。時通は天正3年(1575)に亡くなりますが、この前後で勝浦の正木氏は里見氏に再び服属したとみられています。



▲ 正木時通制札 (町指定文化財、観明寺所蔵)

【問合せ】 教育課 ☎(42)1416

平成29年7月号



上総十二社祭りは毎年9月13日に行われている、玉前神社の秋季例大祭です。「裸祭り」とも呼ばれ、平成15年(2003)には千葉県指定無形民俗文化財となっています。

その始まりは大同2年(807)といわれ、約1200年の歴史を持ちます。当日は玉前神社の祭神・玉依姫が上陸したと伝えられる釣ヶ崎の祭典場へ玉依姫の一族を祀る周辺神社から神輿が集まってきます。御神霊を乗せた神馬と神輿が釣ヶ崎へ向かって砂浜を走る「シオフミ」が行われ、房総に多い浜降り神事の中でも最古の歴史を誇ります。

祭礼は9月8日の「幟立て」に始まり、10日に鶴羽神社(睦沢町)を迎え祭、12日に宵宮祭が執り行われ、13日の例祭を迎えます(14日に「幟返」が行われ終了する)。

現在は玉前神社と南宮神社(宮原)、玉崎神社(いすみ市岬町和泉、中原)、玉前神社(同市岬町椎木、一宮町綱田)からそれぞれ「大宮」「若宮」の2基、谷上神社(同市谷上)から1基の神輿、5社9基の神輿が釣ヶ崎海岸に集ま

ます。

かつては十二基の神輿が集まったことから、十二社祭りという名称で呼ばれています。江戸時代の記録によれば「玉前六社」(玉前神社、玉垣神社(睦沢町)、三之宮神社(同上)、橋樹神社(茂原市)、一之宮神社(茂原市)、南宮神社)それぞれが「大宮」「若宮」2基の神輿が集まり「十二社」ということだったようです。

2020年東京オリンピックのサーフィン会場となった釣ヶ崎海岸。歴史と伝統ある、神々の集う海岸で、一宮町の新たな歴史の1ページが刻まれることになるでしょう。



▲ 平成28年の様子

【問合せ】 教育課 ☎(42)1416